

2011年度

科目名	日本文学史Ⅴ			
担当教員	東 典幸			
配当	日文2		コード	42028
開期	後期	講時	木曜日2限	単位数 2
授業テーマ	日本の小説の歴史。			
目的と概要	昭和時代から現在までの小説を中心に日本の近代文学史を学ぶ。			
成績評価法	毎回教場レポートが課される。			
テキスト	プリントを配布。			
参考書	座談会昭和文学史 全6巻 (集英社)			
履修に当たっ ての注意・助言 /準備学習	明治文学、大正文学は授業ではほとんど扱わないが、基礎的な知識は身につけておくのが望ましい。			
講義計画				
大正の文豪				
1. 小説のはじまりとおわり。夏目漱石「三四郎」、水村早苗「日本語が亡びるとき」。				
2. 私小説の風土。 志賀直哉「暗夜行路」、中村光夫「志賀直哉論」。				
3. 耽美派、芸術至上主義。谷崎潤一郎「人魚の嘆き」、芥川龍之介「地獄変」。				
昭和戦前				
4. 新感覚派。 横光利一「花園の思想」、川端康成「眠れる美女」。				
5. プロレタリア文学。 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」、小林多喜二「一九二八年三月十五日」。				
6. 転向文学。太宰治「人間失格」、中野重治「村の家」。				
昭和戦後				
7. 戦後派。 野間宏「真空地帯」、三島由紀夫「憂国」。				
8. 第三の新人。 遠藤周作「沈黙」。				
9. 戦後の終り。 大江健三郎「万延元年のフットボール」ほか。				
ポストモダン昭和				
10. 内向の世代。 後藤明生「挟み撃ち」。				
11. 物語の終り。村上春樹「1973年のピンボール」。				
12. 物語の復権。中上健次「日輪の翼」。				
ポストモダン現在				
13. 山田詠美「ジェシーの背骨」「学問」。				
14. 小川洋子「博士の愛した数式」。				
15. 川上未映子「ちょっぴん、なー」「戦争花嫁」。				